

シーガルズ 来月マリンド開幕戦

習志野市を本拠地とする  
 社会人アメリカンフットボ  
 ール「Xリーグ」一部所属  
 チーム「オービックシーガ  
 ルズ」の開幕戦が9月7日、  
 千葉市美浜区の千葉マリ  
 スタジアムで行われる。「地  
 元千葉から日本一を」を合  
 言葉に、練習を重ねる選手  
 たちのために、習志野市や  
 NPO法人も集客に力を貸  
 している。

同チームはリーグ優勝5  
 回、日本選手権優勝3回の  
 強豪。2003年から習志  
 野市茜浜のグラウンドを本  
 拠地としている。同チーム  
 の渡部滋之取締役による  
 と、アメフトの試合の多く  
 は、川崎市の川崎球場で行  
 われ、企業内のクラブチー  
 ムが多いため、地元住民と  
 の接点は少ないという。こ



現役選手らが地元の子どもたちと触れ合うフラッグフット  
 ボール教室は大人気（オービック習志野グラウンドで）

アメフト 地元PR

のため、「マイナーなスポー  
 ツだからこそ、地元へ愛さ  
 れる努力をしなければ生き  
 残れない」と、リーグ側と  
 相手チームを説得。昨秋の  
 開幕戦で初めて、千葉マリ  
 ンでの開催にこぎ着けた。  
 しかし、この時は「直前  
 に決まり、地元PRする  
 時間がなかった」（渡部取  
 締役）という。この反省か  
 ら、今年は5月から毎月、  
 子ども向けにアメフトをア  
 レンジした「フラッグフッ  
 トボール」教室を行い、毎  
 回20人程の子どもたちと交  
 流するなど、地域に根ざし  
 た活動を続けてきた。

今秋の開幕戦は、昨秋を  
 3500人上回る5000  
 人の集客が目標。持参すれ  
 ば、2000円の当日券が  
 半額になるPRチラシを3  
 万枚用意し、地元商工会議  
 所や千葉マリソ近くの商店  
 などに配布したという。習  
 志野市もこうした活動を支  
 援し、市役所庁舎内にチラ  
 シを置く。6月には、広報  
 課職員がフラッグフットボ  
 ール教室を取材し、市の広  
 報紙の一面に掲載すると、  
 7月の教室の申し込みが40  
 人に倍増したという。井沢  
 修美広報課長は「地域に貢  
 献してくれており、市とし  
 ても地元開催を盛り上げて  
 いきたい」と張り切る。  
 渡部取締役が知人に紹介  
 された、印西市の順天堂大

サッカー部員らで作るNP  
 O法人「レヴィエン」も集  
 客に協力。同法人のメンバ  
 ーたちが今月24日から、9  
 月7日の試合当日まで毎  
 日、千葉マリソ近くのJR  
 海浜幕張駅周辺でチラシを  
 配り、PRに努める。スタ  
 ッフの渡辺光さん(23)は  
 「スポーツを愛する者とし  
 て、一緒に汗を流したい」  
 と協力を惜しまない。

オービックシーガルズの  
 古庄直樹主将(32)は、「初  
 めて見た人に『アメフトっ  
 て面白い』と思ってもらえ  
 る試合をしたい。少しでも  
 千葉の人を元気づけられた  
 ら」と勝利を誓う。